

盛土(もりど)工事

明治以降、商工業の発展とともに、工場やビルが大量に地下水をくみ上げたことにより地盤沈下が深刻化し、高潮による被害がますます大きくなりました。このため戦後の新しいまちづくりでは、区域を浸水や高潮から守るため大阪港の修築工事から生じる大量の土砂を使って盛土工事が進められることになりました。1950(昭和25)年のジェーン台風では、盛土工事が完了していた地域が浸水をまぬがれたため、盛土の防災的価値が認められるようになりました。盛土工事が急速に進められました。盛土工事は築港地域から順次取り組みました。



盛土後の路面高に合わせた下水道マンホールの築造



送砂ポンプによる盛土工事

大阪港の内港化工事で掘った土砂を送砂ポンプで運び盛土をしました。



ジェーン台風では
盛土のおかげで
大きな被害を免れた
木戸岡 宏さん(79)
三条通(今の大橋)生まれ

1950(昭和25)年の港区は、築港地域では盛土工事が進んでいましたが、それ以外の区域では盛土工事が行われていませんでした。そんな状態で9月にジェーン台風で、高潮被害にありました。その時は築港地域の盛土をしている場所には、水は来たけれど床下をサツと流れただけですぐに引いていきましたね。でも、盛土をしていない土地はすっかり浸かってしまいました。水没した家は台風の後、家を持ち上げて、その下に土を入れて盛土をしていましたね。

高潮対策事業

戦後、地盤沈下を止めるために、工業用水が給水され、地下水のくみ上げが制限された結果、1965(昭和40)年ごろに地盤沈下はほぼ止まりました。また盛土に加えて、防潮堤や防潮扉が整備され、さらに大阪港から川をさかのぼる高潮をせき止めるために、河口近くに水門が作されました。こういった取組の結果、港区では第2室戸台風以降、高潮被害が起きていません。

2011(平成23)年におきた東日本大震災では、津波により多くの人命が失われました。津波から身を守るために少しでも高い場所に避難できるよう、港区では耐震の基準を満たした3階以上の建物を「津波避難ビル」に指定しています。



安治川水門(左)と安治川内港防潮扉(右)

土地区画整理記念事業の実施

コミュニティ豊かな将来にわたって活力と潤いあるまちへ

現在の港区は、東部はJRと地下鉄が結節して商業・文化施設が集積し、中央部は八幡屋公園に加えて大阪市中央体育館、大阪プールという国際レベルの施設を有し、西部は年間200万以上の人々が訪れる海遊館に加え、大阪の観光戦略の重点エリアとしてクルーズ船の誘致など、国際的な観光・集客拠点をめざしています。

2015(平成27)年1月、戦後70年と区制90周年の節目の年に、港区の世界に類がない規模の土地区画整理を記念する事業の実施が決定しました。現在の「区民センター」「老人福祉センター」「子ども・子育てプラザ」を弁天町交差点南西用地に一体的に再構築し、港図書館もここに移転・拡充し、幅広い世代の交流と活動を促進する拠点「(仮)区画整理記念・交流会館」を整備します。このことによって港区のコミュニティをさらに活性化し、将来にわたって活力と潤いのあるまちづくりを進めるとともに、大阪みなと中央病院と連携して、港区の地域医療・災害時医療の拠点機能の形成をめざします。



大阪港



大阪市中央体育館



大阪プール



オーク200

弁天町駅前土地区画整理記念事業

*イメージであり、建物の形態等は今後設計や関係先との協議を経て決定

